

情報提供について

85製品群	ワークシート	特掲した成分	成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能		
					適応禁忌	併用禁忌	長期運用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他						
No	小分類	No	タイトル			次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいずれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外		トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、と	用法用量の項	効能の項	
3	解熱鎮痛薬	2	解熱鎮痛薬	解熱鎮痛成分	アスピリン	アスピリン	バイエルアスピリン	本剤または他のアスピリン製剤によるアレルギー既往歴、本剤または他の解熱鎮痛薬・かぜ薬による喘息既往歴、15歳未満の小児、胃・十二指腸潰瘍、出血傾向、出産予定日12週以内の妊婦	他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬	長期運用は避ける。	服用中は飲酒しない。	医師・歯科医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍既往歴	ショック(アナフィラキシー)皮膚粘膜眼症候群(ステーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死症(ライエル症候群)、喘息	発疹・発赤、かゆみ、悪心・嘔吐、食欲不振、胸焼け、胃痛、消化管出血、めまい、浮腫、貧血、耳鳴、難聴	5-6回服用してもよくなる場合		1回500mg、1日3回まで。服用間隔は4時間以上あける。なるべく空腹時は避ける。	頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・月経痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・打撲痛・骨折痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱
				アセトアミノフェン	アセトアミノフェン(坐剤)	アルピニーA坐剤	本剤による過敏症既往歴、本剤または他の解熱鎮痛薬・かぜ薬による喘息既往歴	他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬	1日1回とし、2日続けて使用しない。	使用時は飲酒しない。	医師・歯科医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、心臓病、肝臓病、腎臓病、胃・十二指腸潰瘍	ショック(アナフィラキシー)、皮膚粘膜眼症候群(ステーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死症(ライエル症候群)、肝機能障害、喘息	発疹・発赤、かゆみ、悪心・嘔吐、食欲不振、めまい/下痢、軟便	1回使用しても再度発熱した場合。	肛門にのみ使用。	6~12歳100~200mg、3~5歳100mg、1~2歳50mg~100mgを1日1回、肛門内に挿入	小児の発熱時の一時的な解熱	
				アセトアミノフェン	子どもリングルサット		本剤によるアレルギー既往歴、本剤または他の解熱鎮痛薬・かぜ薬による喘息既往歴		長期運用は避ける。	服用時は飲酒しない。	医師または歯科医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、心臓病、腎臓病、肝臓病、胃・十二指腸潰瘍	ショック(アナフィラキシー)、皮膚粘膜眼症候群(ステーブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死症(ライエル症候群)、肝機能障害、喘息	発疹・発赤、かゆみ、悪心・嘔吐、食欲不振、めまい	5-6回服用しても症状がよくなる場合。		下記の1回服用量を、なるべく空腹時をさげ、かむか口中で溶かして服用。服用間隔は4時間以上あける。11~14歳200mg、7~10歳150mg、5~6歳100mg、5歳未満服用しない。1日3回を限度。	頭痛・歯痛・抜歯後の疼痛・月経痛・咽喉痛・耳痛・関節痛・神経痛・腰痛・筋肉痛・打撲痛・骨折痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱	

情報提供について

85製品群	ワークシート		特掲した成分	成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能
	No	小分類				No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌	長期連用	その他	患者の背景	重篤な副作用				
						次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいずれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外		トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、と	用法用量の項	効能の項
				イブプロフェン	イブプロフェン	イブ	本剤による過敏症既往歴。本剤または他の解熱鎮痛薬・かぜ薬による喘息既往歴	他の解熱鎮痛薬、かぜ薬、鎮静薬	長期連用は避ける。	服用時は飲酒しない。	医師・歯科医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、授乳中、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、心臓病、腎臓病、肝臓病、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン氏病	ショック(アナフィラキシー)、皮膚粘膜眼症候群(ステイブンス・ジョンソン症候群)、中毒性表皮壊死症(ライエル症候群)、肝機能障害、腎障害、無菌性髄膜炎、喘息	発疹・発赤、かゆみ、悪心・嘔吐、食欲不振、胃痛、胃部不快感、口内炎、めまい、目のかすみ、耳なり、むくみ/便秘、下痢	5-6回服用しても症状がよくなる場合。		大人15歳以上1回150mg、1日3回まで。なるべく空腹時をさける。服用間隔は4時間以上あける。	頭痛・歯痛・生理痛・咽喉痛・関節痛・筋肉痛・神経痛・腰痛・肩こり痛・打撲痛・耳痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛、悪寒・発熱時の解熱
4	催眠鎮静薬	3	催眠鎮静薬	塩酸ジフェンヒドラミン	塩酸ジフェンヒドラミン	ドリエル	妊婦または妊娠の可能性、15歳未満の小児、日常的に不眠の人、不眠症の診断を受けた人	他の催眠鎮静薬、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬(鼻炎用内服薬、乗物酔い薬、アレルギー用薬)	寝つきが悪い時や眠りが浅い時のみ服用にとどめ、連用しない。	乗物または機械類の運転操作をしない。授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避ける。服用時は飲酒しない。	医師の治療を受けている人、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、排尿困難、緑内障、前立腺肥大	発疹・発赤、かゆみ、胃痛、悪心・嘔吐、食欲不振、頭痛、起床時の頭重感、昼間の眠気、気分不快、神経過敏、一時的な意識障害(注意力の低下、ねぼけ様症状、判断力の低下、言動の異常等)、動悸、倦怠感、排尿困難/口のかわき、下痢	2-3回服用しても症状がよくなる場合。	翌日まで眠気が続いたり、だるさを感じるがある。	就寝前以外は服用しない。	寝つきが悪い時や眠りが浅い時、大人1日1回50mgを就寝前に服用	一時的な不眠の次の症状の緩和、寝つきが悪い

情報提供について

85製品群		ワークシート		特掲した成分			成分名				製品名 (一般用医薬品)				してはいけないこと				相談すること				その他の注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能	
No	小分類	No	タイトル																								
5	眠気防止薬	4	眠気防止薬	中枢神経興奮成分	無水カフェイン	無水カフェイン	カーフェソフト錠	胃酸過多、心臓病、胃潰瘍	コーヒーやお茶などのカフェインを含有する飲料	短期間の服用にとどめ、連用は避ける。					妊婦または妊娠の可能性、授乳中の人		食欲不振、悪心・嘔吐、ふるえ、めまい、不安、不眠、頭痛、どろつき									成人（15歳以上）1回93～186mg、1日465mgまで。続けて服用する必要がある場合は4時間以上の間隔をあげる。	眠気の除去
6	鎮うん薬 (乗物酔防止薬、つわり用薬を含む)	5	鎮うん薬 (乗物酔防止薬、つわり用薬を含む)	抗ヒスタミン成分	塩酸メクリジン	塩酸メクリジン	センバア S		他の乗物酔い薬、かぜ薬、解熱鎮痛薬、鎮静薬、鎮咳去痰薬、抗ヒスタミン剤を含有する内服薬（鼻炎用内服薬、アレルギー用薬）				乗物または機械類の操作をしない。	医師の治療を受けている人、妊娠または妊娠の可能性、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、排尿困難、緑内障		発疹・発赤、かゆみ、排尿困難/口のかわき、便秘									15歳以上；1回25mg、1日2回まで。乗物酔いの予防には乗車前30分前に服用。4時間以上の間隔をあげる。	乗物酔いによるめまい・吐き気・頭痛の予防及び緩和	
8	その他の精神神経用薬	6	その他の精神神経用薬		コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロイチンZ S錠							医師の治療を受けている人、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴		発疹・発赤、かゆみ、下痢	1ヵ月位服用しても症状がよくならない場合。							服用時に錠剤をそのまま口に入れると口中に付着することがある。多めの水またはぬるま湯と一緒に服用する。	関節痛、神経痛、腰痛、五十肩、神経性難聴、音響外傷性難聴、疲労回復		

情報提供について

85 製品群		ワークシート		特掲した成分		成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能	
No	小分類	No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌			長期連用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他	患者の背景	重篤な副作用					一般的な副作用
9	ヒスタミンH2受容体拮抗剤含有薬	7	ヒスタミンH2受容体拮抗剤含有薬	H2ブロッカー	シメチジン	シメチジン	アルサメック錠	H2ブロッカーによるアレルギー既往歴、医療機関で次の病気の治療や医薬品の投与を受けている人；血液の病気、腎臓・肝臓の病気、胃・十二指腸の病気、喘息・リウマチ等の免疫系の病気、ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤、アゾール系抗真菌剤、医師から赤血球数が少ない・血小板数が少ない・白血球数が少ない等の血液異常を指摘されたことがある人、小児（15歳未満）および高齢者（80歳以上）、妊婦または妊娠の可能性、授乳婦	他の胃腸薬				乗物または機械類の運転操作をしない。（眼が、めまい、混乱感があらわれることがある。）	医師の治療を受けている人または他の医薬品を服用している人、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、高齢者（65歳以上）（一般に高齢者は生理機能が低下していることがある）、次の症状のある人：のどの痛み・咳および高熱（これらの症状のある人は重篤な感染症の疑いがあり、血球数減少等の血液異常が認められることがある。服用前にこのような症状があると本剤の服用によって症状が悪化し、また本剤の副作用に気づくのが遅れることがある。）・原因不明の体重減少・持続性の腹痛（他の病気が原因であることがある）	ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死症（ライエル症候群）、肝機能障害	発疹・発赤、かゆみ、はれ、頭痛、手足のしびれ・こわばり感、動悸、発熱、脱力感、倦怠感、感冒様症状、皮下・粘膜下出血、全身のむくみ、血尿／便秘、下痢、口のかわき	誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合。	本剤を服用の際は、アルコール飲料の摂取は控える。	胃痛、胸やけ、もたれ、むかつきの症状があらわれた時、下記の1回服用量を水またはお湯で服用する。大人（15歳以上、80歳未満）1回100mg、1日3回まで。小児（15歳未満）は服用しない。高齢者（80歳以上）は服用しない。服用後4時間以上たっても症状が治まらない場合はもう1錠服用する。2回目の服用後4時間以上たっても症状が治まらない場合はもう1錠服用する。症状が治まった場合は服用を止める。3日間服用しても症状が改善がみられない場合は、服用を止めて、医師または薬剤師に相談。2週間を超えて続けて服用しない。	胃痛、胸やけ、もたれ、むかつき（本剤はH2ブロッカー薬を含んでいる）（効能・効果に関連する注意）効能・効果に記載以外の症状では本剤を服用しない

情報提供について

85製品群		ワークシート		特掲した成分		成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能
No	小分類	No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌			長期運用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他	患者の背景	重篤な副作用				
No	小分類	No	タイトル					次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいずれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外	トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、と	用法用量の項	効能の項	
				ファモチジン	ファモチジン	ガスター10	H2プロトンポンプ阻害薬によるアレルギー既往歴、医療機関で次の病気の治療や医薬品の投与を受けている人；血液の病気、腎臓・肝臓の病気、腎・十二指腸の病気、喘息・リウマチ等の免疫系の病気、ステロイド剤、抗生物質、抗がん剤、アゾール系抗真菌剤、医師から赤血球が少ない・血小板が少ない・白血球数が少ない等の血液異常を指摘されたことがある人、小児（15歳未満）及び高齢者（80歳以上）、妊婦または妊娠の可能性、授乳婦。	他の胃腸薬				医師の治療を受けている人または他の医薬品を服用している人、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、高齢者（65歳以上）（一般に高齢者は生理機能が低下していることがある）、次の症状がある人：のどの痛み・咳及び高熱（これらの症状のある人は重篤な感染症の疑いがあり、白血球減少等の血液異常が認められる場合がある。服用前にこのような症状があると本剤の服用によって症状が憎悪し、また、本剤の副作用に気づくことが遅れることがある）・原因不明の体重減少・持続性の腹痛（他の病気があることがある）	ショック（アナフィラキシー）、皮膚粘膜眼症候群（ステイブンス・ジョンソン症候群）、中毒性表皮壊死症（ライエル症候群）	発疹・発赤、かゆみ、はれ、気分が悪くなったり、だるくなったり、発熱してのどが痛いなどの体質異常があらわれる。／便秘、軟便、下痢、口のかわき	誤って定められた用量を超えて服用してしまった場合。	本剤を服用の際は、アルコール飲料の摂取は控える。	胃痛、胸やけ、もたれ、むかつき（本剤はH2プロトンポンプ阻害薬を含んでいる） ＜効能・効果関連する注意＞効能・効果に記載以外の症状では本剤を服用しない。		

情報提供について

85製品群	ワークシート	特掲した成分	成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能	
					適応禁忌	併用禁忌	長期運用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他					
No	小分類	No	タイトル			次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいずれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外		トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、と	用法用量の項	効能の項
14	制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの	12	制酸・健胃・消化・整腸を2以上標榜するもの	(その他) オキセサゼイン	サクロンQ	妊婦または妊娠の可能性、15歳未満の小児	他の胃腸薬(ロートエキスを含む製剤)、他の胃腸鎮痛鎮痙薬	長期運用は避ける。		医師の治療を受けている人、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴		発疹・発赤、かゆみ、頭痛、めまい、脱力感/便秘	5-6回服用しても症状がよくなる場合。		かまずにすぐのみこむ(口内にしびれが残る)。	成人15歳以上1回10mg、1日3回。服用間隔は4時間以上あける。	胃痛、腹痛、はきけ(むかつき、胃のむかつき、二日酔・悪酔のむかつき、嘔気、悪心)、嘔吐、さしこみ(疝痛、痙)、胸やけ、胃酸過多、胃部不快感、げっぷ(おくび)
15	胃腸鎮痛鎮痙薬	13	胃腸鎮痛鎮痙薬 副交感神経遮断成分	臭化ブチルスコポラミン	臭化ブチルスコポラミン		他の胃腸薬(ロートエキスを含む製剤)、他の胃腸鎮痛鎮痙薬、薬物酔い薬		乗物または機械類の運転操作をしない(目のかすみ、異常なまぶしさ等の症状があらわれることがある)。	医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、排尿困難、心臓病、緑内障		発疹・発赤、かゆみ、頭痛、顔のほてり、異常なまぶしさ、排尿困難/便秘、口のかわき	5-6回服用しても症状がよくなる場合。	就寝前以外は服用しない。	10mgを1日3回を限度として服用。服用間隔は4時間以上あける。	胃痛、腹痛、さしこみ(疝痛、痙)、胃酸過多、胸やけ	
16	止瀉薬	14	止瀉薬 腸内殺菌成分	塩化ベルベリン	塩化ベルベリン	ワカ末錠				医師の治療を受けている人、発熱を伴う下痢、血便、粘液便のある人、高齢者		5-6日間服用しても症状がよくなる場合		1日3回食後に服用。成人(15歳以上)960mg、1日服用回数3回。8歳以上15歳未満480mg、1日服用回数3回。	下痢、消化不良による下痢、食あたり、はき下し、水あたり、くだり腹、軟便		

情報提供について

85製品群		ワークシート		特掲した成分		成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能
No	小分類	No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌			長期運用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他	服用後、次の重篤な症状が現れた場合、相談すること。など	相談することによって出てくる事項で、左の3項目以外				
				その他の止しゃ成分	塩酸ロペラミド	塩酸ロペラミド	シグナル下痢止め	本剤によるアレルギー既往歴	胃腸鎮痛鎮痙薬			服用時は飲酒しない。	医師の治療を受けている人、発熱を伴う下痢のある人、血便のある人または粘液便の続く人、急性の激しい下痢または腹痛・腹部膨満・はきけ等の症状を伴う下痢のある人(本剤で無理に下痢を止めるとかえって病気を悪化させることがある)、便秘を避けない肛門疾患等のある人(服用により便秘が発現することがある)、妊娠または妊娠の可能性、高齢者、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、食あたり・水あたりによる下痢の人	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することによって出てくる事項で、左の3項目以外		1回0.5mgを1日2回服用。下痢が止まれば服用しない。服用間隔は4時間以上あける。	食べすぎ・飲みすぎによる下痢、凍冷えによる下痢
17	瀉下薬(下剤)	15	瀉下薬(下剤)	刺激性下剤成分	ピコスルファート	ピコスルファートナトリウム	コーラックソフト		他の瀉下薬(下剤)		大量に服用しない。	医師の治療を受けている人、妊娠または妊娠の可能性、はげしい腹痛、悪心・嘔吐		はげしい腹痛、悪心・嘔吐/下痢	1週間位使用しても症状がよくなる場合。		15歳以上；1回5～7.5mg、1日1回就寝前(または空腹時)に服用。初回は最小量を用い、便通の具合や状態をみながら少しずつ増量または減量。	便秘、便秘に伴う次の症状の緩和；頭重、のぼせ、肌あれ、吹出物、食欲不振(食欲減退)、腹部膨満、腸内異常発酵、痔	

情報提供について

85製品群		ワークシート		特掲した成分		成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能	
No	小分類	No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌			長期連用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他	患者の背景	重篤な副作用					一般的な副作用
								次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいずれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。など	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外		トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、とか	用法用量の項	効能の項	
				ピサコジル	ピサコジル	コーラック						他の瀉下薬(下剤)	大量に服用しない。	医師の治療を受けている人、妊娠または妊娠の可能性、はげしい腹痛、悪心・嘔吐		はげしい腹痛、悪心・嘔吐/下痢	1週間位使用しても症状がよくなる場合。		15歳以上; 1回10mg、1日1回就寝前または排便期待数時間前に服用。かまずに服用。なるべく空腹時に。制酸剤や牛乳を飲んでから1時間以内の服用は避ける。錠剤をかんだり、つぶしたりせずそのまま服用する。	慢性便秘、常習性便秘
				(その他)	マルツエキス	和光堂マルツエキス						他の瀉下薬(下剤)		医師の治療を受けている乳幼児、1ヶ月未満の乳児(新生児)、はげしい腹痛・嘔吐のある乳幼児		/下痢	1週間位服用しても症状がよくなる場合。	便通不足は、母乳不足または調整乳希釈方法の誤りにより起こることがある。	1歳未満の乳児には、授乳前に50~100mLの温湯かミルクに加え与える。また、1歳以上3歳未満の幼児には、そのままか50~100mLの温湯かミルクに加え与える。1歳以上3歳未満9~15g、6ヶ月以上1歳未満6~9g、6ヶ月未満3~6g、1日3回を限度。	乳幼児の便秘、乳幼児の発育不良時の栄養補給

情報提供について

8 5 製品群		ワークシート		特掲した成分		成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の 注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能		
No	小分類	No	タイトル	適応禁忌	併用禁忌			長期運用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他	次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいづれも服用しないでください。など					長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。
18	洗腸薬	16	洗腸薬	直腸大腸刺激成分	グリセリン	グリセリン (洗腸剤)	イチジク洗腸			運用は避ける。 (常用すると、効果が減弱し、いわゆる“なれ”が生じ)薬剤にたよりがちになる)			医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、1歳未満の乳児、高齢の乳児、高齢の腹痛、悪心・嘔吐、痔出血のある人、心臓病				2-3回使用しても排便がない場合。	たちくらみ、肛門部の熱感。不快感があまりすぎない。洗腸のみを使用(内服しない)。	50%グリセリンを直腸内に注入。効果のみられない場合はさらに同量をもう一度注入。 *年齢に応じて使用する製品とグラム数が異なる。	便秘	
					ピサコジル	ピサコジル (坐剤)	ツージーQ			運用は避ける。			医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、本人または家族のアレルギー体質				はげしい腹痛、悪心・嘔吐	2-3回使用しても排便がない場合。	肛門部の刺激感、腹部不快感、腹痛があらわれることがある。	12歳以上1日1回、1個(10mg)を直腸内に挿入。1日2個を限度。	便秘
19	駆虫薬	17	駆虫薬	駆虫成分	パモ酸ピルビニウム	パモ酸ピルビニウム	パモキサン液		他の駆虫薬、ヒマシ油	2回以上続けて服用しない。再度駆虫を必要とする場合は、1ヵ月以上の間隔をおく。			医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、1歳未満の乳児、本人または家族のアレルギー体質				発疹・発赤、かゆみ、胃痛、腹痛、悪心・嘔吐、食欲不振、頭痛、めまい、倦怠感	効果がみられない場合	ぎょう虫はヒトの口から容易に感染するので、手をよく洗うなど家族感染に注意する。	1日1回、8~10歳；120mg(ピルビニウム塩基として)、5~7歳；60mg、3~4歳；48mg、1~2歳；38mg、3~11ヵ月；24mg。2回以上続けて服用しない。	ぎょう虫の駆除

情報提供について

85製品群	ワークシート	特掲した成分	成分名	製品名 (一般用医薬品)	してはいけないこと				相談すること				その他の注意	使用方法 誤用や過量	用法用量	効能					
					適応禁忌	併用禁忌	長期連用	その他	患者の背景	重篤な副作用	一般的な副作用	その他									
No	小分類	No	タイトル			次の人は服用しないでください。など	本剤服用中は次のいづれも服用しないでください。など	長期に使用しないでください。	服用後の車の運転。服用中の飲酒など。	次の人は医師、歯科医師、薬剤師に相談してください。など	まれに下記の重篤な症状が起こることがあるので、直ちに受診など。	服用後、次の症状が現れた場合、相談すること。などで、左の3項目以外	相談することに出てくる事項で、左の3項目以外		トローチの口内で徐々に溶かしてとか、口内が痺れるのですぐに飲み下す、とか	用法用量の項	効能の項				
23	動脈硬化用薬 (リノール酸、レシチン主薬製剤等)	18	動脈硬化用薬 (リノール酸、レシチン主薬製剤等)	高コレステロール改善成分	ポリエンホスファチジルコリン	ポリエンホスファチジルコリン	エサヘパンス							医師の治療を受けている人		発疹・発赤、かゆみ、悪心、胃部不快感、胸やけ、腹部膨満感/下痢、軟便		薬剤の服用は食事療法の補助療法です。本剤を服用しても現れている食事療法を続ける。		15歳以上1回500mg、1日3回食後に服用	血清高コレステロールの改善
					酪酸リポフラビン	酪酸リポフラビン	スリムノール							医師の治療を受けている人		発疹・発赤、かゆみ、悪心、胃部不快感、胸やけ/下痢			15歳以上1回2錠(30mg)、1日2回食後に服用	血清高コレステロールの改善	
26	鎮咳去痰薬	20	鎮咳去痰薬	—	(その他)	ナンテン実エキス(喉飴)	トキワナンテン喉飴							医師または歯科医師の治療を受けている人、妊婦または妊娠の可能性、本人または家族のアレルギー体質、薬によるアレルギー既往歴、高熱		発疹・発赤、かゆみ、悪心・嘔吐、食欲不振、めまい	5-6回服用しても症状がよくなりません。		1錠ずつ口の中に含み、かまずにゆっくり溶かす。	成人(15歳以上)は1回167mg、8歳以上15歳未満は1回111mg、5歳以上8歳未満は1回56mgを1日3回服用。服用間隔は2時間以上あける。	せき、のどの炎症による声がれ・のどの不快感・のどの痛み・のどのほれ